

ので、手順、形を覚えておきましょう。

図2の局面はスペースを取っている白がわずかによしくらいです。

8. 0-0 Nc6

8... Nbd7 も可能。以下 9. Qe2 b6 10. Rd1 (アロニアン対カリーキ 2009年。白やや優勢)

9. a3 Ba5 10. dxc5 ?!

クラシカルにもどるなら 9. Qc2 とします。本譜では 9. a3 とビショップの動きを先に確かめに行っています。相手の動きを見てからクイーンを動かそうという作戦です。

最新理論では 10. Qd3 も有力とされています。

以下 10... a6 11. dxc5!? (11. Rd1 互角) 11... Qxd3 12. Bxd3 Bxc3 13. bxc3 Rd8 14. Bc2 (ランダ対アルマーシ 2014年) 白やや優勢。

10... Bxc3!

普通ビショップ・ペアを自分から捨てることはしませんが、白をダブル・ビショップにすることがこの場合の交換条件です。白がポーンを得しても、そのポーンをいかに守りにくいか理解してください。

『ダブル・ポーンは悪型』

11. bxc3 Qa5 (図3)



fen:r1b2rk1/pp3ppp/2n1pn2/q1P5/2B5/P1P1PN2/5PPP/R1BQ1RK1 w - - 0 12

ここまで互角ですが、続きは黒のねらいを理解してもらうため元女子世界王者、ロシアのコステニウク (ロシア) が黒番で勝った棋譜を掲載しておきます。

12. Bd3 e5! 13. Qc2 Rd8 14. Ng5 h6 15. Ne4 Nxe4 16. Bxe4 Qxc5 17. a4 Qc4 18. Ba3 Be6 19. Rfd1 Rac8 20. Bd6 Qb3 21. Qc1 f6 22. Bb1?

Nd4! (図4)



fen:2rr2k1/pp4p1/3Bbp1p/4p3/P2n4/1qP1P3/5PPP/RBQR2K1 w - - 0 23

黒のピースがすべて働いていて、優勢となりました。その後も黒は攻め続け、ねばる白を43手でしりぞけました。

23. exd4 Rxd6 24. Rd3 exd4 25. Bc2 Qb6 26. Rb1 Qa6 27. Qf4 Rxc3 28. Rxc3 dxc3 29. Rxb7 Rd1+ 30. Bxd1 Qxb7 31. Qe3 Qd5 32. Bc2 Qe5! 33. Qxe5 fxe5 34. f3 Kf7 35. Kf2 Bc4 36. Ke3 Ke6 37. Ke4 a5 38. h4 g5 39. hxg5 hxg5 40. g3 Kd6 41. Bb1 Kc5 42. Kxe5 Bb3 43. f4 Bxa4 0-1

ウビエニク対コステニウク 2016年

(写真はコステニウク)

